受賞各社の声

大　賞

㈱三輪書店

代　表　者：代表取締役社長　青山　智
所　在　地：東京都文京区本郷 6-17-9 本郷綱ビル

事業内容：医療・介護分野の書籍、雑誌を専門とした出版業
資　本　金：3000 万円
従業員数：23 名
創　　業：1987 年



青山智 三輪書店社長

【受賞理由】

医学出版業から、障害を抱える児童の訪問看護・リハビリ業へ進出。後発のハンデを乗り越え新たなビジネスモデルを構築したこと。

【勇気ある挑戦】

三輪書店は医学系出版最大手である医学書院出身の三輪敏氏が1987年に創業し、研修医向けの雑誌・書籍のほか、作業療法士や理学療法士の資格試験模試、リハビリテーション分野の雑誌・書籍などを手掛けてきました。

私は2004年、社長に就任しましたが、電子書籍化の流れを受けた紙媒体の広告減少などで会社の先行きは不透明感を増していました。このため、当時のオーナーから会社を買い取った上での再建を決意。本業の立て直しと次代の新たな事業の柱を構築するという“新たな挑戦”に乗り出しました。

2010年、まずは子会社の東京リハビリテーションサービスを設立。訪問看護リハビリ事業に進出しました。ただ、介護保険制度がスタートしてから10年を経ており、競合がひしめく市場への挑戦となりました。実は当社は過去に介護事業に参入したことがあります。しかし当時の社員は引退。社内に経験者はおらず、実態としては最後発の新規参入という恰好でした。

そんな中で、三輪書店というブランドの大きさを改めて理解しました。作業療法士など、介護関連の資格を持っている人たちは、資格模試を受けた経験があり誰もがこの社名を知っていました。その会社が展開する事業だということで、有資格者など専門職の確保や育成につながったと思います。

もっとも、収入が得られるまでの間は人件費などの費用もかさみ、事業運営は混迷します。こうした状況を乗り越えようと、提供するサービスの対象やターゲットを絞り込む戦略を進めました。それは、市場の主流である「高齢者介護」ではなく、医療保険適用となる「障害者向けの訪問リハビリサービス」でした。市場という意味ではより小規模で専門性が求められる分野です。

資格模試や専門書を通じた有資格者、専門家との接点やネットワークで、独自の教育プログラムも開発。優秀な専門職の確保と他社を圧倒する質の高いサービスは最大の強みとなりました。中でも、医療的ケアを必要とする児童をはじめ、障害をお持ちの児童向けのリハビリサービスでは確固たる地位を確立できました。

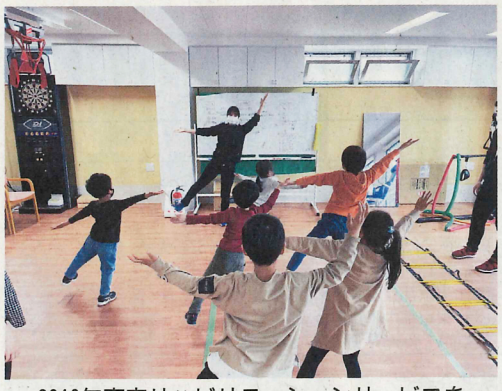
この児童向けのサービスでは専門書も刊行。今では東京リハビリテーションサービスの利用者の３割、1000名を超える児童がこのサービスを受けています。

【受賞にあたって】

今回の受賞を通じ、児童に対する支援という課題があること、その課題には解決方法もあることを合わせて知っていただけると嬉しく思います。

【今後の展開】

児童向けのサービスは特殊な施設でしか受けられないと思いがちですが、そんなことはありません。私はそうした児童たちも“住みたいところに住みたい人と暮らす権利があるし、暮らせるようにしていきたい”と考えています。今後はそうしたサービスをより地方にも広めるべく、東北などへの拠点の設置なども進めていきます。と同時に、ＩＴの活用も進め、人口の減少が進む中でも、より広くより質の高いサービスの提供を目指し、一つのビジネスモデルを構築したいと考えています。



2010年東京リハビリテーションサービスを設立



ブランドの強さを武器に障害を持つ児童の権利をこれからも守っていく